

議員自主研修（講座・視察）実績報告書

氏名 齋藤 天

議員自主研修（講座・視察）について、下記のとおり報告します。

1 受講した研修

実施機関等	間（あわい）の芸術文化研究所
研修（講座・視察）名	講演「知の力、美しい日本のために いま、知っておきたいこと、伝えたいこと」
研修（講座・視察）内容	登壇者の講演内容とプロフィール ・鈴木宣弘氏：「今必要なのは武器ではなく農業」 東京大学大学院特任教授、農業経済学の専門家。食料危機や農業の重要性を講演。 ・原丈人氏：「世界の現実と日本の未来」 アライアンスフォーラム財団代表理事、公益資本主義を提唱し、国際社会課題に取り組む実業家・思想家。 ・廣戸聡一氏：「身体の神秘と伝統的所作」 廣戸道場主宰、身体動作と伝統的所作の専門家。骨理学と身体の神秘を解説。 講演内容とテーマ 3者のトークセッション：「日本の再生と美意識の継承」
研修（講座・視察）期間	令和8年4月5日
研修（講座・視察）日程	4月5日13:00～16:00 兵庫県神戸市・湊川神社神能殿

2 経費の内訳

経費の種類	内 容		金 額
交通費	利用する公共交通機関（区間）	片道・往復	なし
	自家用車（4月5日）	往復	なし

	ETC 料金 座光寺スマート IC ～湊川出入口	往復	合計 12,760 円
	ガソリン代 (4月5日)	往復	3,120 円
宿泊費	なし		0 円
日当	日×2,000 円 (県外のみ)		
参加費	あり		5,500 円
その他経費	なし		
経費の合計額			21,380 円

3 添付書類 ・ 領収書

4 成果等

	評価項目〔5～1のいずれか1つの番号を○で囲む。〕	理由〔具体的に記入〕
	・ 研修内容の選定は適切であったか 適切 (5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 不適切	今後の公益のため
自己評価	・ 研修の目的（学び）は達成できたか できた (5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 できなかった	著書で講義しながら学ぶ
	・ 事前の調査、準備は十分であったか 十分 5 ・ 4 ・ (3) ・ 2 ・ 1 不十分	事前に著書を読んでよく理解した
	・ 研修を通して自身の能力が向上したと思うか した (5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 していない	経済に対する視界が開けた
	・ 具体的な活用の有用性、実現性があるか ある (5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 ない	資料作り、講演会を行った 議員も入る
	研修報告	今回の研修会は、日本の農業・経済・伝統という切り口から現代の問題点とその解決を見出す講演とトークセッションでした。
	(具体的な研修内容、事前の企画・準備・研修当日・事後の振り返りを通じて習得できたことや研修成果の業務への活かし方、提案等を記入 ※別添書類による提出可。ただし、上の内容	鈴木宣弘氏は、日本の食料自給率の低さと農業基盤の弱体化に強い危機感を示し、食料安全保障の再構築を訴えていた。肥料・資 料・種苗・燃料などの輸入依存から脱し、地域に根ざした農業と 生産者を守る政策への転換が不可欠であると主張した。

を含むものであること。)	原丈人氏は、株主利益の最大化に偏る米国型の株主資本主義を見直し、企業を社会全体の利益に資する公器として位置づける「公益資本主義」を提唱している。経済成長と社会課題の解決を両立させる仕組みの構築が重要であると説いた。 廣戸聡一氏は、身体動作を骨格や重心、連動性の観点から捉え直し、個々の身体特性に即した動きの理解と活用を重視している。 伝統的所作や独自理論（4スタンス理論）を通じて、健康増進と運動能力向上の可能性を示している。 登壇者の3氏に共通するのは、既存の常識や制度の限界を見直し、東洋的な本質に立ち返って社会や身体のあり方を再構築すべきだと訴えている点である。ただし、対象領域は食料政策、経済思想、身体論と異なり、それぞれの専門性に基づいて異なる角度から課題提起をされた。
---------------------	--